

令和5年度第1回大網白里市地域公共交通活性化協議会 議事録

- 1 日 時 令和5年6月15日（木）午前10時から
- 2 場 所 大網白里市保健文化センター3階ホール
- 3 出席者 別紙委員名簿のとおり
- 4 配付資料
 - ・次第
 - ・委員名簿
 - ・席次
 - ・コミュニティバスチラシ（増穂・白里）
 - ・規約
 - ・資料1 令和4年度決算について
 - ・資料2 大網白里市地域公共交通活性化協議会財務規程新旧対照表
 - ・資料3 令和5年度予算（案）
 - ・資料4 地域公共交通計画認定申請書
 - ・公共交通に関する市民アンケート（案）

1 開会

（事務局：久保）

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。
はじめに本日の出席者数は、委員18名中、委員15名、代理出席者3名のご出席をいただいていることをご報告申し上げます。

それでは、開会に先立ちまして、お手元の配付資料の確認をさせていただきます。

～配付資料について確認～

本日は、大網白里市地域公共交通活性化協議会傍聴規則に基づき、市ホームページにてご案内いたしましたが、傍聴者はございませんでしたので、ご報告させていただきます。

それでは、これより、令和5年度第1回大網白里市地域公共交通活性化協議会を開会いたします。

次第に沿いまして、進めさせていただきます。

2 委員及び事務局紹介

（事務局：久保）

はじめに、委員及び事務局のご紹介をさせていただきます。

令和5年度、初めてお集まりいただいで会議となりますので、改めまして、委員の皆様をご紹介させていただきます。大変恐縮ではございますが、お名前をお呼びいたしますので、呼ばれましたら、ご起立をお願いいたします。

～司会より委員及び事務局の紹介～

3 会長挨拶

次に次第の3、会長挨拶に移らせていただきます。

当会の会長であります轟会長から、ご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたしますします。

(轟会長)

改めましておはようございます。

本日はお忙しいところ、令和5年度の第1回地域公共交通活性化協議会にご出席いただきましてありがとうございます。今年度初めての協議会ということで、人事異動等により、新しく委員になられた方もおられますが、どうぞよろしくお願いいたしますします。

コロナも5類ということになりまして、皆さんの外出機会も増えてきたかと思います。ぜひ、外出機会をどんどん増やして、地域の活性化につなげていただければと思います。

そのためには、交通というのは非常に重要です。公共交通を充実させて、利便性の高いものにして、外出機会を支え、地域の活性化に繋がればと、このように思っているところです。

それに関連して本日は5件の議題を用意していただきました。その中の一つが地域公共交通計画の認定申請に関する議題でございまして、コミュニティバスの運行に関わる国庫補助金の交付これを受けるために必須のものです。しっかりと地域の実情に即した計画となるよう、そして補助金をいただくわけですから、有効に活用すると、こういうことで皆さんに議論いただきたいと思ってます。

その他公共交通に関する認知度や満足度等を把握するためのアンケートも議題に含まれております。ぜひ皆さんの活発なご議論をいただきたいと思っております。

本日もどうぞよろしくお願いいたしますします。

(事務局：久保)

ありがとうございました。

それでは、これより、議題に入らせていただきますが、協議会規約第8条第1項の規定に基づき、議長を轟会長にお願いいたします。

4 議題

(轟会長)

それでは規約によりまして議長を務めさせていただきます。では早速ですが議事次第ご覧いただきまして4の議題から進めて参ります。(1)の令和4年度決算について事務局より説明をお願いいたします。

(事務局：弘中)

～事務局より議題(1)について説明～

ありがとうございます。

ここで監査委員の久我様に監査報告をお願いいたします。

(久我委員)

令和4年度決算について、監査報告いたします。

大網白里市地域公共交通活性化協議会規約第15条第1項の規定に基づき、令和5年4月20日に、令和4年度決算について帳簿及び関係書類を監査したところ、正確かつ適正に処理されていると認め、これを報告いたします。大網白里市地域公共交通活性化協議会監査委員 久我一雄。

(森会長)

ありがとうございました。

それではただいま報告がありました件について、ご意見ご質問等ございますでしょうか。特にございませんので異議なしということによろしいでしょうか。

＝異議なし＝

ありがとうございます。

ではこの件は原案通り承認とさせていただきます。

続いて議題(2)に移ります。

大網白里市地域公共交通活性化協議会財務規程の改正について及び議題(3)も併せて、お願いしたいと思います。令和5年度予算案についてです。

(事務局：弘中)

～事務局より議題(2)及び(3)について説明～

(森会長)

ありがとうございます。

規程の一部改正、それからそれに合わせての予算(案)をお示しいただきましたが何かご質問ご意見ございますでしょうか。

(永田委員)

新たにコミバスの運行費が協議会から支払われるということになったとのことなんですが、もしこの875万円以上、費用が増えた場合、その差額っていうのはどのように処理されるのでしょうか。

(事務局：弘中)

国庫補助金の予算額になります875万8000円というのは、あくまでも国庫補助金の上限額として予算を編成しておりまして、実際に市がバス事業者にお支払いしている運行費につきましては、3年間の委託契約を結ばせていただいた中で、すでに市から事業者さんの方にお支払いしてる状況になります。それに対して、この国庫補助金や運賃収入を市に納入いただき、市の払った歳出予算を補填してるようなイメージでございます。

なので、基本的には3年間は同じ運行経費の中で運行していただきますので、運行経費が、基本的には委託契約の中で上下するということは想定はしておりません。

(永田委員)

わかりました。

(轟会長)

その他いかがでしょう。

無いようであれば、お諮りしたいと思います。議題の(2)と(3)、規約の改正それから予算(案)ですが、ご異議ございませんでしょうか。

＝異議なし＝

ありがとうございます。

ではこの2件を承認とさせていただきます。

それでは続いて議題の(4)です。地域公共交通計画認定申請について事務局より説明をお願いいたします。

(事務局：弘中)

～事務局より議題(4)について説明～

(轟会長)

ありがとうございます。

いかがでしょうか。補助金をもらうために計画に基づいて実施をしているものです。

(堀江副会長)

今説明のあった、国への申請の中における目標効果の中なんですけども。コミュニティバスの目標値を設定させていただいております。増穂地区については令和8年の1便平均利用者が9.5。それから白里地区のコミュニティバスにつきましては、1便当たり3人という目標を設定しておりますが、この中、冒頭に会長からお話があった通り、コロナ禍が大分収まってきて、一方でまた、いつ、再燃するかという状況ですけれども。5月8日以降5類になってから経済活動も活発になってきたと。つまり、リモートからまた出社という流れも出てくると思うんですが、ここで、公共交通事業者の方にお伺いしたいのですが、特にバス利用の復元状況っていうのは、まだ1ヶ月程度ですけれども、その辺がどうなってるか、またタクシー利用の方につきましてもどうかということを、ご意見いただきたいなと思ひまして質問させていただきます。

(中村委員)

千葉中央バスの中村でございます。

一般路線の関係、コロナ禍でダイヤを減らした部分もあるんですけども、全体の傾向から申し上げますと、最近になって今おっしゃられたように、通常に戻りつつあると思います。しかしながら、2019年の通常期と比べると、15%ぐらい減ってるという状況です。

ご存知の通り、バ斯特関係を廃止したという中で、収入が10%減という状況でして、依然として厳しい状況が続いております。

分析の中では、地域によって異なる部分がございますが、今、リモートの方が大分解消されてるというお話もございましたが、地域によっては、ハイテク関係とかAI関係とか、こういった会社にお勤めの方とかが大分いらっしゃいまして、このコロナによりまして、

これが定着してしまっていると。いわゆる、行かなくてもいいんだとか、あとは週に2回来ればいいんだとか、こういう大手の事業者さんにお勤めの方、これは結構いらっしゃいます。なので、新しい生活様式に慣れた中だと、今の状況が、ある意味限界に近いのかなと考えております。以上です。

(深山委員代理：西邑様)

小湊鐵道です。

千葉中央様がお話されたのとほぼ同じですけれども、路線バスに関してはコロナ前の1割減または15%減ぐらい収入は減っております。あと、高速バス白子千葉線など大網を通るところ。それについて5月8日にダイヤ改正をさせていただきまして、平日、休日ともに減便したんですけれども。便あたりの人数は上がってるんですけども、やはりコロナ前に比べますと、まだまだ7割8割という状態でございます。あと、定期券ですね。やはり年々購入される方が減っておりまして、特に通学に関しましては、少子化の影響だと思うんですけども、減っていく一方ということで、やはり定期券の販売というのが大きな収入源でございましたので、そのところがなかなか伸びないというところでございます。以上です。

(轟会長)

ありがとうございます。タクシーの方いかがでしょうか。

(秋葉委員)

秋葉タクシーでございます。

駅の乗降客数に関しては、本年の1月2月3月という流れの中で、大分戻ってきているように感じます。前年比に比べると1割増ぐらいですが、ただ今バスの方でもおっしゃってたとおりです。コロナ前と比べると、利用者数としては1割減というところで推移しているように感じます。ただ、大網駅に関しては弊社含めて3社、タクシー会社が入っているんですが、弊社含めて3年前と比べて、まだ稼働率が100に戻せてないところがあるんです。3年間の中で、例えば車両を休車してたりとか、乗務員さんがその間でお辞めになってたりというところも含めて、まだその前に比べて、稼働台数を戻せてない部分があるので、そこで台数が少ないところで、お客様が、ある時期集中してしまうと、短期的には利用者数が伸びてくみたいな形が、数字として出ております。3月が一番ピークで、売り上げが伸びたんですけども、4月5月というところで、期待値としてコロナが5類に落ちたところで、お客様がもう少し増えるのかなというところがあったんですが、そこは思ったほど影響がなかったです。なので、5月6月というところで少し落ち着いたところで、推移しています。タクシーの稼働を駅につけているか、もしくは病院等通う方のお電話をいただいて配車するかなんですが、病院に通う方の数は、まだコロナ前に比べて戻ってないという印象です。むしろ減っていて、そこはこのまま推移するんじゃないかなと思っています。

(糸日谷委員)

私ども白里海岸と大網駅に車両を配置しておりますので、大網駅のことは秋葉社長の方で今お話くださったとおり、どこの会社も、駅の場合はやはり一緒になりますので、駅の方は秋葉さんと同じになります。白里海岸に関しては、はまバスの利用客が伸びないよう

に白里からの仕事というのが今非常に減っております。白里に車両を置いてあっても、その近辺の大網白里市と接する東金市とか、九十九里町、白子町の方のお客さんから呼ばれていくということがありまして白里のお客さんというのは今かなり減っている状況にあります。ただやっぱりはまバスが伸びないのも、そういうところなのかなと思っております。

(轟会長)

ありがとうございます。まだまだ厳しい状況が続いてるということですね。ちょっと私も冒頭に言いましたけど、出かける機会自体を増やさないとなかなか難しいのかなと思います。天候に期待しちゃいけないんですけど、雨だとやはり公共交通の利用者は増えるので、この梅雨の時期は、多少増えるのかと。その他いかがですか。

(小野委員)

ちょっとお聞きしたいんですけど。今お聞きしたこれから国に提出する、書類としてですね。令和6年度から8年度にかけて、このように利用者数を伸ばすようという形の一覧表が出てきたんですけども、これはおそらく現在のバスの利用を前提とした人員の想定であるんですね。一方で、今回あらかじめ送られてきた書類の中には、乗り合いタクシー、に関するアンケート調査もあるわけですが、例えば乗り合いバスもいいんだけど、仮に、乗り合いタクシーを使いたいという声が非常に多い場合、これは途中でですね、バスではなくて、乗り合いタクシーの方式というのを、採用するという柔軟な考えのもとでアンケートを作られたでしょうか。

(事務局：弘中)

今回のアンケートにつきましては、昨年度の協議会でも一部触れたんですけども、新たな移動手段の確保というものを地域公共交通計画の中に位置付けておりまして、その中の一つとして、デマンドタクシーの可能性といいますか、そういったものを探るためにアンケートの中に具体的に、デマンド型乗合タクシーというものを載せさせていただきました。基本的には、市の方針といたしましては、公共交通空白地域を解消するためにやるという、方針は変わりません。それを念頭に置いた中で、白里地区には現在のはまバスが走ってますので、基本的には、その他の空白地域をまずは優先的に解消していく形になるのかなとは考えております。

なので、例えば、白里地区でデマンドタクシーの希望が多くあったからといって、それをすぐに切り替えるということは、現時点では考えておりません。

(小野委員)

わかりました。ありがとうございます。

(轟会長)

状況に応じて或いは利用者のニーズこれに応じて柔軟に対応していくというのが今の計画のあり方かと思います。

(成田委員)

千葉県バス協会の成田といいます。

私から資料4-1のですね。3枚目の下段にあります3.2の目標達成をするために行う事業及びその実施主体として4点掲げられております。私の方でちょっと確認をさせていただきたいのは、二つ目の点ですね。バス停情報のオープンデータ化を今年度これをやるというふうに記載されてまして、大網白里市と交通事業者、ということで、関係するバス事業者のオープンデータ化となりますと、そうしたオープンデータ化するための作業等が発生するわけなんですけれども。大網白里市の地域公共交通計画には、目標達成するための事業として、5年かけてやるというのは承知してるんですけれども。今年度、今時点でやるのが、ある程度、いつからやるというのが決まっているのであればいいんですが、今後どのようにオープンデータ化するか、バス事業者並びにタクシー事業者等との調整が必要であれば、この辺はデータ化の検討みたいな表現の方が、来年の3月までに、がっちりオープンデータが完了するということであれば、現時点では検討ということではないのかと思われるんですけど。これが一つです。

あと次の商業施設等と連携した割引サービスや企画切符の発行ということで、これも発行ということで、もう、かなり調整が進んで、この発行がある程度の時期も見えてるんであればいいんですが、調整が今年度必要ということであれば、発行に関する見直しとか検討とか調整とか、事業自体が今年度に完結するのであればこの書き方でもいいんですけど、調整とかがあるのであれば、その辺は幅を持たせた表現の方がいいんじゃないかと。

この2点は指摘なんですけど、1番上に運行便数運行ルートの見直しというのも書いてあるんですけど、これはもう一つの質問なんですけど、今年度の事業でどのように見直すかというのは、どういうスケジュールで、次回の協議会でこうした内容も出るのか。この辺についてちょっと補足して説明をいただければと思います。

(事務局：弘中)

まず1点目の黒ポチ二つ目のバス停情報のオープンデータ化につきましては、前年度にコミュニティバス両路線のバス停情報等を、グーグルマップの方に公開している状態でございます。今後それをさらに発展させまして、例えばバスの位置情報ですとか、そういったものがわかるものを導入するかどうかについては現時点では明確にどうするかいうことは決まっておりません。なのでオープンデータ化の調整検討といったような表現の方が正しいかもしれません。

次の黒ポチ三つ目の商業施設と連携した割引サービスや企画切符の発行、こちらにつきましては、公共交通計画の中では、令和8年度末までに1件の実績を作りたいという目標を掲げておりまして、今年度につきましては、明確にどういったスケジュールでというのは特には決まっておりませんので、こちらについても調整というような表現になるかと思われます。

最後の黒ポチ一つ目の運行便数運行ルートの見直しにつきましては、まだバス事業者さんとの協議がすべて整ったわけではないんですけれども、白里地区のコミュニティバスに関しまして、一部バス停の追加ですとか、そういったものを検討しております。1度、競合路線になります小湊鐵道さんには、そのお話をさせていただいた段階です。こちらにつきましては、協議が整い次第、年内の協議会で、委員の皆様にはお示しして、ご協議をいただければと考えております。なお、基本的にはルート等の変更は来年の4月をめどに進めているところです。

(成田委員)

すべて正確にご答弁いただいてありがとうございます。

1点目は年度内に協議があれば提案していただくということなんですけど。2点目3点目の表現については調整等していただければと思います。それに合わせて私の方は調整いたします。

(轟会長)

ありがとうございます。実は私も同じことが気になってまして、これは今年度のものなのか。5年間のものなのかということがちょっとわかりにくいので。そのあたりしっかりと今年度の申請ですので、今年度の申請にあったものに少し表現も変えていかないといけなかなと思います。具体的にどんなことをやるのかというところも、ちょっと細かい話ですけど、2ポツ目は、今のお話聞いているとバス停情報のオープンデータ化ってのはもう既にバス停は終わっているということですか。

(事務局：弘中)

はい。そうです。

(轟会長)

そうするとこの表現もバス停はいらないんですかね。

(成田委員)

コミュニティバスは終わっていますが、全てのバスではないので。

(轟会長)

そうですね。バス停全てではないんですね。確認させていただいて適切な表現にしていただければと思います。その他いかがでしょうか。

(吉田委員)

区長会の関係で来てます吉田です。さっきの目的のところの4番目に書いてある地元自治会等にモビリティマネジメント実施して書いてありますが、その具体的な内容みたいなものはあるんですか。

(事務局：弘中)

今年度はコロナの方も収まってきたということもありまして、地元の区長会のような大きい会議ではなくて、もう少し小さい、社会福祉協議会さんの方で管理されてるサロンというのがあるんですけども、そういったものに出向いて、バスのPRですとか、そういったことをさせていただこうと計画をしております。

(轟会長)

では、そういったことについても地元の方々の御協力をいただければと思います。その他いかがでしょう。ないようであれば、これまでの意見を踏まえて、表現自体は、事務局、また会長副会長にご一任いただければと思いますが、その修正があるということ

前提に、お諮りしたいと思いますが、そのような形でいかがでしょうか。ご異議ございませんでしょうか。

＝異議なし＝

ありがとうございます。一部修正ということで承認をいただきました。

それでは5つ目の議題ですが公共交通に関する市民アンケートについて先ほども少し議論になりましたが、まずは説明をお願いいたします。

(事務局：弘中)

～事務局より議題（5）について説明～

(轟会長)

はい。ありがとうございます。こちらについて何かご質問ご意見、特に要望ですね。内容を加えたり、或いは、文言といったものに対しても、ご意見いただければ。

(永田委員)

実は私の方から1件というか提案も複数あるんですが。なので、とりあえず全部意見を述べさせてもらった後、1個ずつ潰してくような形をとっていただければいいのかなと思いますけど。

まず1ページ(7)ですね。運転免許返納についての質問ですけれども。一つ加えたらどうかと思ってます。選択肢として、代替の移動手段があれば返納したい、ということですね。実は免許証を返したいんだけど、足がないからやむを得ずというか、必要性もあると思ってるという意味なんですけども。これを1つ加えたらいかがかなと。

次にですね問3、路線バスの調査なんですけれど。ちょっと先に質問させてもらいたいのは、この路線バスというのは、コミュニティバスとか、高速バスは含まれるのか含まれないのか。

(事務局：弘中)

こちらの問3につきましては、あくまでも路線バスについての設問としております。コミュニティバスは、また別の問で出てきますので。

(永田委員)

高速バスは。

(事務局：弘中)

高速バスも含まないと考えております。

(永田委員)

いろんな考えの方がいるので、ちょっと但し書きか何か。高速バス、コミュニティバスを除くとか入れたほうがいいのか。小さい文字でもいいですからね。私がはじめ読んだ時に、コミュニティバスも含まれちゃうのかなと誤解したので。

次にちょっと前に戻って問2の(3)ですね。鉄道は利用しないってということなんですけども。その他があるんですけども一つ回答に加えた方がいいと思うのが、利用する理由とか、目的がない。意味わかりますかね。要は、鉄道、そのものが利用する必要がある、ない。要するに使わないって項目なんです。

あと、実は次の問3の路線バスの(3)にも、やはり同じように、バスは利用しない。バスはあるんだけど他に自家用車やタクシーとか、使ってるとかってというのはあるんですけど。これも同じくやっぱり路線バスそのものは、自分の生活の中で、利用する目的・理由がない。という項目が、あった方がいいのか。という意見です。

続けて、あとコミュニティバスですね。コミュニティバスの利用実態、満足度についてですけど、要するにコミュニティバスが走ってない地域の人はどう答えたらいいのかなと思うんですね。そうすると、自分の近くをコミュニティバスが走ってない人は、利用しない。という回答をして(3)に移ると思うんですけども。でも(3)っていうのは、コミュニティバスが運行してる地域の中であって、利用しない人の該当項目がほとんどなので。一つここは、コミュニティバスが運行してない地域である。というようなことを、回答欄に加えたらどうかなと思います。以上です。

(轟会長)

ありがとうございます。その他皆さんからご意見いただいて、まとめて事務局から回答いただいた方が良くと思いますので。

(小野委員)

先ほどお話ありました今回のアンケート。16歳から85歳の市内に住む人で2000名無作為抽出だということなんですけども。基本的には交通の空白地帯をなくすバスということの位置付けとの気持ちはわかるんですけども。私としては、今現実的にバスを必要とする世代の人たち、大体概ね65歳以上ですか。その人達の意見を主に聞きたい、聞いた方がいいんじゃないかという気がするんですね。現実的に、おそらくこういうバスもしくは交通機関を利用する人というのは、いわゆる交通弱者に関する人が多いと思うんですよ。実際自分で動ける人、通勤通学できる人間は、ほとんどは車で目的地まで行っちゃうということが多いと思うんですね。そうすると、このアンケートに対する回答そのものは、もうやめちゃうということが非常に考えられるので。例えば無作為ですね、15から85というのを、機械的に1000人というように選ぶんじゃなくて、要するにピックアップするのは、全体のうちの10%だけを例えば若い人にして、極端に言えばですよ。80から90%を交通弱者と考えられる世帯、もしくはそれに属する人間に配布するということを考えた方がより生きたデータとして解析できると私は思うんですけど、どうでしょう。これは後で答えいただければ結構です。

(成田委員)

千葉県バス協会成田といいます。

ちょっと説明で聞き漏らしたのであれば申し訳ないんですけど。8月1日から15日の2週間調査を行うということでご説明があつてですね、これは発送した後の期間を指してると思うんですけど。こうしたアンケートをやる前に、届いた方がちゃんと真摯に書いてもらうように、事前にいろいろとご案内とかをするというのも一つかと。広報とか使ってですね。

それによって、よりこのアンケート調査の内容というのは、非常に重要だということで、届いた方にしっかり書いていただくような、お取り組みもあっていいんじゃないかなというのがまず一つあります。

加えてですね、2000通の是非は、私もわからないんですが、全人口のうち、このアンケート調査の集計による効果というのもいろいろ議論があると思うんですけど。特に大網白里市は市域も広くて、合併後の地区なんかもあるので、無作為抽出の場合に、その地域的なバランスが崩れてるとかそういうことも、ある程度、無作為抽出というものに対する考え方、今小野委員からも話がありましたけれど。一般的に大網白里市では、今までもこういう行政の計画を立てる時のアンケートが、2000通であったのかどうか、通常これで政策的にはまず一つの参考資料として2000でやってたということであればその説明をいただければと思うんですけども。一番気になるのは地域的なバランス。あと、世代間のバランスもあると思うんですけど、無作為ってなりますと、この辺についてはお考えをお伺いできればと。

それからもう1つ、いいですかね。ちょっと内容についてなんですけど、2ページの間3路線バスの中に、コミュニティバスとか高速バス除くという永田委員の意見に私も賛成です。対象が曖昧だと混乱すると思うので、路線バスを括弧コミュニティバス及び高速バスを除くとか、いろいろと注記を入れていただければありがたいなと思ってます。それからこれは直接すぐ影響することではないんですが、公共交通会議で、今後、こうしたアンケートをもとに、新しい交通サービスをここで決めていくといったときに、非常に重要となる事柄なので、あえてちょっと誤解を恐れずに申し上げたいのは、4ページ拝見していただきたいんですけど。コミュニティバスというものの対比で、デマンド型乗り合いタクシーという整理があります。この中にですね、運賃というところとメリットというところに、運賃のところでは※で、一般のタクシーよりは安価と確定的に書かれているんですけど。後程ページで言うと、6ページにも(6)デマンド型乗り合いタクシーを利用する際、片道の運賃は幾らまで支払えますかということで、具体的な金額が書いてまして、意向を調べるにはこういう方法も一つあるんですが。その結果を踏まえてこれを資料にして、じゃあ使う人が200円だったらたくさんいるから、これで決めようと。具体的にバスもそうなんですけど。まずここで決められる運賃っていうのは、一般のタクシーまたは路線バスに影響しないってことは前提なんです。すなわち、ここで安い幅で書かれているんですけど、これ各バス事業やタクシー事業にも調整されたかどうかってのは、いわゆるこの金額でやられたらというのが地域的にあるんですよ。もうタクシーがなくなっちゃったとか、乗り合いのデマンドがあって、なくなった後、やっぱり一般のタクシーも使いたいなって市民の方がいた時、実はないと。デマンドタクシーはある程度予約制とかって使いづらさがございまして。こうした運賃に係る内容を記載するときは、バス事業とタクシー事業者に、この金額でやられたら困るかどうかというのは、聞いていただいて、ちょっと表記された方がいいんじゃないかと。実際この近くの地域でも、定額の市の行うタクシーでですね。一般路線バス事業が大幅に影響を受けたというのも情報としてありますので、この運賃に係る表現、アンケートで出す時ですね、内容は否定しませんが、ぜひバス事業タクシー事業等の公共交通事業者へ調整をしていただけないかというのがこれはお願いであります。これを否定するものでありませんけれども、調整した上で、市民に対してお送りいただけないかと。これ4点目はお願いであります。以上です。

(轟会長)

はい、ありがとうございます。

ちょっと私からも。まずアンケートの無作為抽出ですけど、やはりこれは人口分布だとか、年齢構成を考えるかどうかという二段階の無作為なのかということ。この辺りは確認をしたいと思いますし、あとは、このアンケートによって何を知りたいかということで先ほど小野委員からありましたけど、高齢者の方の意見を知りたいのか或いはもう本当全体として知りたいのかというそのところは確認が必要だと思います。

それから回答方法ですがこういった郵送回収の形っていうのは、実はほとんどが、やはり高齢者の方に偏ってしまうんですね。今はもう基本的にはWEB回答等をしないと、若い人からはほとんど取れないっていうのがわかっていますので。この形で無作為に若い人たちに送っても、ほとんど若い人の声は取れない。若い人、或いは若いっていうのは30代40代までの人達を取りたいのであれば、WEB回答を入れたほうがよろしいかと私は思いました。それからデマンド交通について今もありましたけど、乗り合いタクシーって何かっていうことが説明がないとわからない人がいるんじゃないかなと。大分普及はしてきてますけど。どんなものか。先ほどありました予約が必要なものとかですね、会員、会員登録なのかわかりませんが、そういったものが必要だとか。そういう一般的なものだったり或いはデマンド型のものに関しても定時定路線型もあれば、フリーのものもあればですから、そういったところはしっかりと説明をしないとちょっと。回答がしにくいというか。人によっていろいろな運行形態を考えてしまう可能性がありますので、そこが注意が必要かなと。

他いかがでしょうか。なければ、事務局からまとめて回答いただければと思います。

(事務局：弘中)

それでは、初めに永田委員からご質問いただいた件なんですけれども。

まず、1ページの(7)に回答の選択肢として代替の移動手段があれば返納したいという項目を加えたらいかがかというご質問ですね。そちらについては確かに仰るとおりかなと思いますので、選択肢に加えてさせていただきます。

次に問3の路線バスに他のバス等を含むか含まないかというご質問をいただきまして、こちらは確かに設問だけを見ても、何について答えたらいいのかというところもありますので、こちらについては注記として、高速バス、コミュニティバスを除くというような注記を追加させていただきます。

次に、問2から問4のところで、それぞれの交通を利用する目的がないという項目を入れてはどうかというお話ですけども。こちらについては他の自治体の例も参考にさせていただいて、もう一度事務局の方で検討させていただければと思います。

次に問5の、コミュニティバスを利用しない理由が、バスが走っていない地区の方についてはどう回答したらよいかにつきましては、例えば(1)のコミュニティバスを利用しないに丸をしていただいて、(3)の選択肢4、近くにバス停がないに丸があれば、要するにバスが走っていないから乗れないんだというようなことで回答ができるのかと考えます。ここまでが永田委員の質問に対する回答になります。

次に小野委員からご質問いただきました対象を65歳以上にピンポイントに絞ってはいかがかというところなんですけれども。確かに利用者としては、高齢の方が主なターゲットになっているかと思うんですけども。基本的には、路線バスに関しては、朝晩の例え

ば学生さんとか通勤の方とかも多く使ってる事実がありますので、例えば65歳以上にピンポイントに絞ることも過去には実は、令和2年度に、白里地区の方1000名限定65歳以上っていうアンケートやったことがあるんですけども。そういった地区を絞った中で、また年齢層を絞ってやっていけばいいのかなと考えております。今回につきましては市全体の交通に対するニーズというところなので、基本的にはこの今の16歳から85歳という年齢層の中でやらせていただければと思います。

(小野委員)

例えば1回アンケートをとって、ある程度その経営が成り立つとか把握できた場合に、もう1度2度繰り返してそこを深掘りするというような形で、アンケートを再度繰り返すという事を考えたほうがいいんじゃないかと思うんですね。それはこれからの話なんであれですけども、1回のアンケートをもって、全部綺麗に、傾向をつかめればいいんですけども、おそらくそれは難しいと思うんですよ。いろんな選択肢がどんどんどんどんできてしまって、だからこれはあくまでも、非常によくできたアンケートだと思うんですけども。

大まかな傾向を掴むアンケートというふうな捉え方をして、さらにもう1回ですね、それを第1回のアンケートを元にしても、より詳しい解析用のやつをやるというふうに考えていったら、もう少し話としては、すっきりいくと思うんですけども。

(事務局：弘中)

確かに今回のアンケートにつきましては、市全体を対象としてやらせていただいて、小野委員が仰ったように大まかな内容といいますか、その内容を使うことを目的としております。今後、仮に対象地域を絞っていくとなりました段階では、基本的にその地域の方に直接話を伺いに行ったりですとか、そういった方法を考えておりますので、もちろん紙でのアンケートをもう1回やるというのも手段としてはあるかもをしないんですけども。できるだけ生の意見を聞いた方が、実情に即したものになるかと思いますので、現段階ではそういった形で、仮に地域を絞ったとしたらその地域の地元の方と実際に話をするような機会の場を作っていきたいと考えております。

小野委員からもう一つ、16歳から年齢層の幅が広がってしまってその割合とかの関係ですね。他の方からもご質問があったんですけども、私の説明不足で無作為で2000名と言いましたけれども、各地区によって年齢ですとか、人口の密度は変わりますので、基本的にはそれらを考慮した中で、各地区の中から抽出をしていくという考え方でおります。例えば、誰もいない地区があったりとかっていうのはもちろんないですし、基本的には、それに偏りが出るような形ではやらないならないような形で実施したいと考えております。

(小野委員)

どの地区からの回答かわかるように封筒に地区名が入ってるんですか。

(事務局：齋藤)

住んでる地区とか年齢を記載するようになってますので、回答はそれで確認をしていくような流れになります。

(事務局：弘中)

続きまして成田委員からご質問いただきました、実際にアンケートを送るだけではなくて、事前のPRとかをしたほうがいいんじゃないか、というご質問なんですけれども。こちらについては、広報紙と市のホームページの方では、アンケートを実施するという内容の告知はしたいと考えておりまして、今準備をしている段階でございます。

あと他の方と重複していない質問ですと、この一般のタクシーよりは安価といったその運賃に関する部分。確かに4ページのデマンド型乗り合いタクシーの運賃という※のところは一般のタクシーよりは安価という標記だけ見てしまうと誤解を生じるようなこともあるかもしれませんので、ちょっとこちらの表記の仕方につきましては再度事務局の方で検討させていただければと思います。

あとは問6(6)の、運賃が幾らだったら払えますかという項目につきましては、これは例えば、1の200から400円が大半だったといたしましても、基本的には、これまでも市が行ってきたコミュニティバス等につきましては、地元の既存の競合路線ですとか、そういったものの運賃と乖離しないようにですね、市がやる施策だけが安くなったりですとか、そういったことをしないような形で考慮して、今後も、進めていきたいと考えておりますので、アンケートの結果としては仮にそうなったとしても、実際に導入を検討する際には、もちろん関係事業者の方ですとか、そういった方と協議をした上で、運賃の設定をしていきたいと考えております。

次に轟会長からご質問いただきましたWEB回答の件ですが、回答の方法等少し検討させていただいて、QRコード載せたりですとか、そういった形でちょっと検討していければと思いますので、即答が出来なくて申し訳ありません。

あと、デマンドタクシーの説明を入れたらというお話があったんですけども、そちらについては4ページの方で簡単ではあるんですけども入れさせていただいておりますので、こちらの方で対応したいと考えております。

以上となりますが、回答が漏れてる方、もしいらっしゃればお願いします。

(成田委員)

バス協会の成田といいます。

ちょっと誤解があったようなので、私がアンケートの6ページの金額について、お願いしたのは、ここに書いてある、200円から400円が一番回答が多くても、そういうことはやりませんという説明なんですけど、こういう数字が出て、それが市民の方ができるかもしれないと思うこと自体が、本当にここの大網白里市内の公共交通事業者が、それでいいかどうかを確認して欲しいというお願いであって、やるやらないよりも、こういうアンケートを市民に送る時に、こういうものをアンケートに書いていいかどうかは、公共交通事業者に事前に調整をして欲しいというお願いをしたんですけど。今の事務局の答弁は、回答が全部200円から400円でもやらないと、ちゃんと判断してやらないという説明だったんですけど、ここに記載することについて、協議をして欲しいというお願いなので、誤解がないようにまた確認をさせていただきたいんですけど。

(事務局：弘中)

そちらについては、この後、運行事業者の皆様とお話をさせていただければと思います。

(事務局：齋藤)

今、この場で決めていただいた方が良くないですか。

(深山委員代理：西邑様)

別で決めませんか。

(轟会長)

それじゃ、個別によろしいですか。その他いかがですか。

それでは私からもう1点。先ほど言い忘れましたけど、最近、個人情報の性別のところ、男性女性ってジェンダーレスみたいな話があって該当しないという項目を加えといった方が安全だと思いますので、そこは市の方でご検討いただければ。年齢も最近そういうのが、なかなか答えにくいっていうか、答えないっていう人が多いので。

それではたくさんご意見いただきましたが、ぜひいいアップデートをいただいて、より良いアンケートを作成いただければと思います。そのような形でこれを実施するということに関してはご異議ございませんでしょうか。

＝異議なし＝

ありがとうございました。

それでは議題の(5)は以上となります。

議事4の議事議題はすべて終わりました。

5 その他

(轟会長)

その他ですが、事務局から或いは委員の皆様から何かございますでしょうか。報告事項或いはこの場で関連の質問等あればどうぞ。

(小野委員)

たびたびすみません。いわゆる今うちの方はこの市では乗り合いバスという形でのコミュニティバスを運行してて、場所によってはうまく人が集まらないということになるわけですけども。他の市町村等で、こういうコミュニティバスで結構人がいっぱい乗ってるといような事例というのは特に事務局の方では、調査して、その市町村に聞くというそういう調査はされてるんでしょうか。

現実的にうまくいってる事例ということですね。それを聞いて例えば、ここら辺あたりが自分ところでは足りなかったとか、こういうところを直せばもっといいことになるのかなというように思えますね。参考になると思うんですけども、そういう他の市町村でうまくいった事例というのは、どう調査されてるんでしょうか。

(事務局：弘中)

個別にその自治体さんの方に直接お話をするというのは現時点では特にはしていないんですけども。例えば、いろんなバスの先進的な事例ですとか、そういった部分は、国や県からですね、いろんな情報提供が、いろんな研修等でもありますので、そういったもの

を参考にさせていただいた中で、後は地域の実情に合ったものを、導入していこうという中で、今のコミュニティバスは運行をしております。

(小野委員)

わかりました。どうもありがとうございます。

(轟会長)

今のように、いろんな事例があったり、或いは制度もどんどん変わっていったり、或いは新しいビジネスが入ってから情報化等もすごく進んで、それから価値感的にも、DX、カーボンニュートラルだと。こういったような価値も大きく変わってきており、それからコロナの状況も大分、先ほどもありましたけど変わってきておりますので、そういった状況等は適宜、市の方で把握をいただいて、良いものがあれば、ぜひ取り入れていただければ。

その他いかがですか。何か事務局からありますか。はい、それではその後も以上とさせていただきます。

ではすべての議題が終了しましたので、進行にご協力ありがとうございました。進行を事務局へお返しします。

6 閉会

(事務局：久保)

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。

以上を持ちまして、令和5年度第1回大網白里市地域公共交通活性化協議会を終了とさせていただきます。お疲れ様でした。